

日時 平成27年8月10日(月)

会場 東伯郡湯梨浜町「水明荘」

「体育授業づくりの課題」

講師 東京学芸大学 教授 鈴木 秀人 氏

《体育授業づくりの課題今日話すこと2つ》

○低中学年ゲーム、高学年ボールゲームでの課題

○体づくり運動→低学年まで下りてきていることで整理しなければならない。

1 現在の体育授業の歴史的な位置づけ

身体教育 → 運動による教育 → スポーツの中の教育 その日本版が楽しい体育

〈戦前〉 〈戦後〉 〈現代〉

※今は「楽しい体育」の時代

・戦後昭和の時代の体育のトレンド

例：「みんなで逆上がりを頑張る」→社会的発達、身体的発達、技能向上、知的発達

・現在は第3段階「楽しい体育」学習指導要領全体では「ゆとり教育」「生きる力」「学力向上」と影響を及ぼす方向が変化してきた

2 体育授業づくりのポイント

運動の「面白さ」(楽しさ)の捉え方で注意すべきこと

感情や情緒のレベルのことではない

それぞれの運動の固有の面白さに触れさせるために

生徒がこの境地に達するまでに教師は何をしたのか？

例：〈リズムダンス〉

だれもができる 歩く→回る→伸びる→縮む→ジャンプする→転がる→ひねる→そる→ゆする

リズムダンスの特性 「リズムに乗って自由に動く面白さ」を保障しつつ緩やかな共通課題を与えた
今持っている力で楽しむことが大事

3 体育授業づくりの課題①～ボールゲーム

競争することに面白さがあるですませないで、サッカーにはどういう面白さがあるのか、バスケットボールにはどういう面白さがあるのか・・・とふみこんで考えていきたい。

やさしい競争を楽しむ→やさしいゲーム、公式ルールを絶対視しないでルールを工夫する。

例：〈タグラグビー〉

「前パス」OKの授業にすると崩壊していくゲーム→誰もタグをとりにいなくなる

先生がルールの工夫に失敗しても小学生は不平不満を言わないから、先生は失敗に気づきにくい

・タグラグビーは「陣取り」のゲーム。陣地を取り合い、相手ゴールラインを超える地点まで陣地をとると得点になるという形で、勝敗を競い合うところに面白さがある。

- ・だれにでもできる
- ・ボールをもって走ることから、タグをとられるまで走る、タグを取られたらパスする。

・その運動の苦手な子の運動量

- ・リズムダンス夢中になった結果、運動量が確保される。
- ・タグラグビーで、「タグをもって走ればよい」、「ボールをもって走っている友達の後ろを走ればよい」、という声かけにより夢中になって動いた結果、運動量が確保される。

特性に触れさせながら運動量を確保するためには・・・

考えるポイント＝攻防のバランス

攻撃側と防御側の強力度のバランスを崩さないようにルールを工夫することが大事

4 他のボールゲームについての検討

① バスケットボール

ラグビー→アメリカ好みに作りがえて→アメリカンフットボールが誕生

→19世紀後半 YMCA 冬になると会員減少

→アメフトをインドアでできるように考え、誕生したのが

バスケットボール

※インドアではアメフトのようにタックルはできない。そうすると、攻防のバランスが崩れる。そこで、ボールを持って自由に走れないようにした。

② サッカー

ボールを手（グー）でたたき落としてもよいルール→攻撃側を有利にしている訳ではないから攻防のバランスは崩れない。

③ バレーボール

ルールの工夫・・・ワンバウンド派「ボレーボールだから、キャッチはだめ！」

×（主張が対立？）

キャッチ派「落とし合いだから、ワンバウンドはだめ！」

バレーのおもしろさは何か？→『制限回数内にボールを相手コートに返せるか、返せないか』『相手に返せない強力な球を相手コートに返すが本質』

↓
だから、触球数の変更はルールの工夫としてOK。公式ルールを絶対視しなくてもよい。攻防のバランスは変わらない。よって、「ラリーが続く」を学習のねらいにするのは違う！

「ワンバウンドOKルール」の限定的な許可（サーブをとるとき・スパイクをとるとき・連携の

とき)は、「返せるか・返せないか」のおもしろさを崩さないからOK。

→ キャッチOKは、ここを崩す。

どのボールゲームにもある「変な制約」→それぞれに固有の「おもしろさ」を導く前提であり、攻防のバランスにかかわっている。だからルール工夫は慎重に。

体育授業づくりの課題～体づくり運動～

☆持久走は不人気 ←→ 世の中ではジョギングブーム

ジョギングの楽しさ→自分のペースで走り続ける心地よさ

そこで・・・

持久走を「ジョギング」と単元を変え、年計を変え、新緑の5月に行った。

自分のペース（今持っている力。楽過ぎず、苦し過ぎないペース）でとにかく20分、自分の好きなコースを走る。データをとって、ペースを分析。

取り組んだ結果・・・ 持久力の向上！→「走る」意味の見出しにつながる。

☆ラジオ体操は不人気 ←→ 世の中ではラジオ体操ブーム。

体操は、競争でも、模倣・変身でもない。誰でもできるのでアドバ
イスがしやすい。→運動に意味を見いだせないか？

そこで・・・「ラジオ体操」の授業づくりにチャレンジ！

先生のしたこと

○1～3時間目を行い、一度ストップ。

↓ その間・・・学習資料を見せる。→ラジオ体操の意味に気づく。

毎日1回は行うように指示。

○3週間後に4時間目。ラジオ体操をやってみる。

→自分の体の変化に気づく。

子ども達は何を学習するのか？（体育の学習では何を学ぶのか）

→運動の特性（この場合は「ラジオ体操とは何か」）を学んだ。

そもそも、体育の授業は強制（外発的動機づけ）。

→そこから、内発的動機づけに向けていくのが授業づくりの課題。

外発的・内発的が対立ではなく、連続しているという心理学の考え方。

子どもにとって、運動の意味・・・「おもしろさ」が核！